

お久しぶりです

2年前までときどきこのように新聞を出していましたが再開することにしました。

ご存知ない方もいらつしやると思いますので改めて、この倉庫（アトリエ）のことを紹介しつつ、他にも美術のことと、世界のこと、などを掲示していけたらと思っています。それから、私はこの新聞を停止している間、中国に住んでいたの、そのことなんかも紹介していききたいなと思っています。

読者がいるのか分かりませんがまたよろしく願いします。

寺江圭一朗

随筆

現在の中国から 日本を見る①

現在の日本の報道を通じて、中国の現在についてある程度ご存知のことと思う。爆買いという単語で、中国の景気の良さが伝えられてきた。GDPも世界第二位である。震災以後の日本では、右傾化が進んでいるというようなことが言われていた

し、一年半の中国滞在で見えてきた中国は、全くそのようなものではなかった。中国人の知り合いを見ていると、世界中にチャイナタウンがあるのが分かる気がしたし、中国の製品に対する認識も改めることとなった。

が、それは歪にエスカレートし反中国、反韓国という態度を示す国粹主義が特にインターネットを中心に多数生まれているらしい。しかし、そのような人々でなくとも、例えばお土産で中国の食品などをもらった場合、何やら怪しい物が入っているような気がして、警戒する反応を示す日本人が多いのではないかとと思う。つまり、私は、日本において、中国嫌いは全体で進んでいるように感じている。しか

科学技術の面から端的に言うてしまえば、日本よりも便利な社会になっていることは間違いない。特にインターネットを使ったサービスは、日本よりもはるかに進んでいるように感じられた。それから、自殺率だけ見ても、日本と比べてかなり低いことから、生きやすい社会であることが分かる。

この現実と認識の差がどこから来るかは、現在の日本の報道や政治を見れば明らかで、自ら情報を得なくてはならないことが示されている。寺江圭一朗